

月刊 響都
November 2023



気を付けてね！ ホールでの過ごしかた

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話ししないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2023
11/12

Subscription Concert

第 986 回定期演奏会 C シリーズ

会場：東京芸術劇場コンサートホール

指揮／ジョン・アクセルロッド

ヴァイオリン／アレクサンドラ・コヌノヴァ

♪ シルヴェストロフ：沈黙の音楽（2002）（約 11 分）

♪ シベリウス：ヴァイオリン協奏曲 二短調 op.47（約 32 分）

♪ ショスタコーヴィチ：交響曲第 5 番 二短調 op.47（約 46 分）

 東京都交響楽団

PROGRAM NOTES

今日のコンサートでは、作曲家たちの祈りや願いや情熱がはっきりと感じられる個性豊かな3作品が演奏されます。

♪シルヴェストロフ：沈黙の音楽（2002）

ウクライナを代表する作曲家ヴァレンティン・シルヴェストロフ（1937～）は、キーウで生まれ育ちました。ウクライナがロシア（旧ソ連）の領土の一部として支配されていた頃、シルヴェストロフの音楽は政府に認められず、演奏の機会はほとんど与えられませんでした。21世紀に入ってから彼の作品はドイツのレコード会社によって録音され、世界的に知られるようになりました。シルヴェストロフの作品は美しく澄んだ響きのものが多く、聴く人の心を静かに満たしてくれます。

2002年に作られた《沈黙の音楽》は「瞬間のワルツ」「夕べのセレナーデ」「セレナーデの瞬間」からなり、3曲は続けて演奏されます。各楽器が弱音器をつけて演奏する場面も多く、繊細で静かな雰囲気をつたえています。

みなさんご存知の通り、昨年2月からロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。現在86歳のシルヴェストロフは祖国を離れ、ドイツのベルリンで暮らしています。

弦楽器の弱音器



黒いのが弱音器。いろいろな形・素材のものがあり、駒の部分に着けて音色を変化させます。

♪シベリウス：ヴァイオリン協奏曲 二短調 op.47

作曲者のジャン・シベリウス（1865～1957）は《フィンランディア》というオーケストラ曲で有名です。彼の祖国フィンランドがロシアの支配を受けていた時代（1899年）に作曲され、音楽で愛国心を表し、祖国の人々を勇気づけた名曲として知られています。今日演奏されるヴァイオリン協奏曲は、その《フィンランディア》から5年後の1904年に発表されました。シベリウスが協奏曲というジャンルで書き残した唯一の作品です。

シベリウスは10代半ばからヴァイオリンを弾き始め、演奏家になることを夢見ていました。しかし始めた年齢が遅かったこともあり、ヴァイオリニストになる夢は叶いませんでした。作曲家として才能を開花させた彼は、この協奏曲にヴァイオリンへの情熱をたっぷり注いでいます。独奏ヴァイオリンのパートは、素早いパッセージが多く、複数の音を重ね合わせるなど、大変な演奏技術が求められます。また、シベリウスは生涯に7曲の交響曲を残し、オーケストラの扱いにも長けていました。この協奏曲でもオーケストラは音楽に厚みを与え、立体感に満ちたハーモニーやリズムを奏でます。

第1楽章はオーケストラのヴァイオリンが静かに奏でるさざ波のような響きから始まり、すぐに独奏ヴァイオリンが登場します。薄暗い雰囲気から、ロマンティックなメロディーの掛け合いまで、表情豊かに展開していきます。**第2楽章**は息の長いたっぷりとしたメロディーが響き、**第3楽章**ではリズムカルでエネルギッシュな音楽となってフィナーレを迎えます。

♪ ショスタコーヴィチ：交響曲第5番 二短調 op.47

現在のロシアは、1922年から1991年までの間はソヴィエト連邦（ソ連）という国家でした。1920年代の終わりからヨシフ・スターリン（1879～1953）という政治家が権力をにぎります。彼は社会主義という思想のもとで国民を支配し、それにそぐわない活動をする人々は政治家のみならず、芸術家であっても許ませんでした。国の方針に従わなければ、逮捕されたり処刑されたりするという“恐怖政治”がはびこる中、音楽家たちも命がけで自分の音楽を表現しなければなりませんでした。

ドミトリー・ショスタコーヴィチ（1906～1975）はそうしたソ連時代を生きた作曲家です。1936年、ショスタコーヴィチの作ったオペラが政府から厳しく批判をされました。このままでは音楽家として生きていくことができない、そう判断したショスタコーヴィチは、翌年にこの交響曲第5番を発表しました。あたかも苦しみを乗り越え、最後には勝利に輝く社会主義”という物語を描いてみせたかのような本作により、ショスタコーヴィチは政府からの厳しい攻撃を逃れることができました。ですが、本当のところショスタコーヴィチがどんな思いをこの交響曲に込めたのか、その真意はだれも知ることはできません。一つ確かに言えるのは、この音楽の持つ力強いエネルギーは、時代や国や思想を超えて多くの人々の心を揺さぶるということです。

作品は、シリアスで個性的な主題がいくつも登場する**第1楽章**、どこことなく皮肉っぽくユーモラスな舞曲風の**第2楽章**、暗さのある調べが伸びやかに続く**第3楽章**、勇ましい主題（A）とゆったりとした主題（B）とがA-B-Aの形で現れ、輝かしく幕を閉じる**第4楽章**で構成されています。

文／飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）



若い頃の
ショスタコーヴィチ

指揮 ジョン・アクセルロッド John AXELROD, Conductor



©marc-roger

1988年ハーヴァード大学を卒業。指揮をレナード・バーンスタインとイリヤ・ムーシンに学んだ。ルツェルン交響楽団・歌劇場の音楽監督兼首席指揮者、フランス国立ロワール管弦楽団音楽監督、京都市交響楽団首席客演指揮者などのポストを歴任。現在、ブカレスト交響楽団首席指揮者を務めている。都響には3度目の登壇となる。これまでにバイエルン放送交響楽団、ベルリン放送交響楽団、パリ管弦楽団、シカゴ交響楽団など150以上の世界各地のオーケストラを指揮している。オペラではパリ・シャトレ座、ミラノ・スカラ座、フィレンツェ歌劇場などに登場。現代作品にも積極的に取り組んでいる。

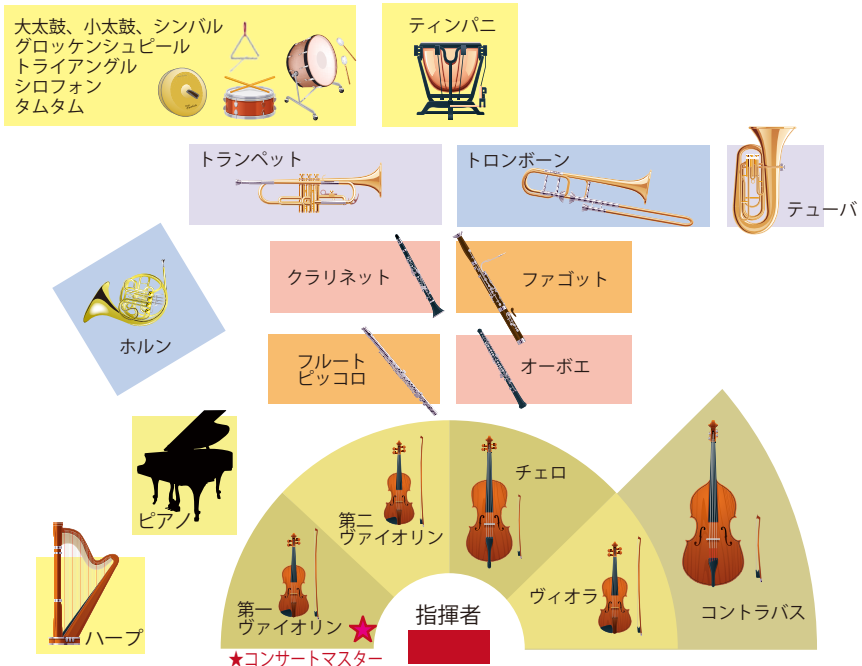
ヴァイオリン アレクサンドラ・コヌノヴァ Alexandra CONUNOVA, Violin



2012年ハノーファー国際ヴァイオリン・コンクール優勝。第15回チャイコフスキー国際コンクール第3位。その優れた技巧、温かみで色彩に富んだ音色で高い評価を得ている。2016年ボルレッティ＝ブイトーニ財団フェロウシップ賞受賞。

これまでにパリ管弦楽団、マーラー・チェンバー・オーケストラ、スイス・ロマン管弦楽団などと共演、またノセダ、プレトニョフ、アクセルロッド、ノットらと共演を重ねている。ヴェルビエ、エクス＝アン＝プロヴァンス、フェラーラ、ティナンダリなど数々の国際音楽祭にたびたび招かれている。『ヴィヴァルディ：四季』などCDもリリースしている。

オーケストラ配置図（11月12日 第986回定期演奏会Cシリーズ）



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

※一曲目「沈黙の音楽」は、管楽器・打楽器は入らず、弦楽器の編成が小さくなります。

TMSO 東京都交響楽団



©Rikimaru Hotta

東京オリンピックの記念事業として
1965年に東京都が設立しました。

都響（ときょう）という愛称で親しま
れています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術
劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、
交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』など
ゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、
病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、
「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。